

## 大学の世界展開力強化事業（平成24年度採択）中間評価結果

大 学 名	千葉大学
整理番号	Ⅱ－1
構 想 名	ツイン型学生派遣プログラム（ツインクル）

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント)	<p>本プログラムは、教育を専門とする学生と理系の学生を組み合わせ、Wメンター（教育学研究科教員と理系研究科教員）による指導の下、ASEANからの受入学生との協働により、現地のニーズ等を盛り込んだASEANの小・中・高校生にとって魅力ある教材を準備し、夏休み、春休みを中心とする派遣期間中に、ASEANの高等学校等で科学の授業を行い、異分野、異文化の人々との協働を通じて、ASEANと日本の架け橋となるグローバル人材の育成を目指す優れた取組である。</p> <p>派遣学生がASEANの高等学校において、コンソーシアム校の教員や帰国した受入学生の協力を得て、実験を組み込んだ授業を行うことにより、現地の生徒が日本の科学技術や教育に対する関心を高めることに成功しており、SENDプログラムの趣旨をよく活かした取組となっている。</p> <p>受入学生数は数値目標を大きく上回り、派遣学生数もおおむね数値目標どおりで、派遣・受入ともに、全て単位取得を伴う学生交流となっている。</p> <p>派遣学生は、英語で授業を行う経験を通じ、平均25点のTOEICスコアの向上が見られる。また、受入学生の3分の2が、千葉大学大学院への入学を希望していることは、受入体制や教育内容への高い評価の表れと言える。</p> <p>ASEAN5カ国12大学30校の小・中・高等学校が参加する「ツインクルコンソーシアム」が設立され、ツインクルプログラムの円滑な運営のために定期的に会合を行っており、今後のASEANとの教育交流拡大のための基盤が形成されていることも評価できる。</p> <p>日本の教育現場において、国際化・多文化化に対応可能な教員の養成が急務となっており、本プログラムが、そのような教員の養成モデルとなっていくことが期待される。</p>